

## 論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博 士 ( 学 術 )	氏名	MALEBANG	GABRIEL
学位授与の要件	学位規則第4条第①・2項該当		GOSIAME G.	
論 文 題 目				
A Critical Assessment of Conflict Transformation Capacity in the Southern African Development Community (SADC): Deepening the Search for a Self-Sustainable and Effective Regional Infrastructure for Peace (RI4P)				
論文審査担当者				
主 査	広島大学大学院国際協力研究科	教授	中園 和仁	印
審査委員	広島大学大学院国際協力研究科	教授	川野 徳幸	
審査委員	広島大学大学院国際協力研究科	准教授	山根 達郎	
審査委員	東京外国語大学大学院総合国際学研究所	教授	篠田 英朗	
審査委員	早稲田大学国際教養学部	教授	上杉 勇司	
〔論文審査の要旨〕				
<p>本論文は、紛争転換（Conflict Transformation）の理論の観点から南部アフリカ開発共同体（SADC）の能力を検討するものである。まず論文の冒頭において、紛争構造をより発展的な方向に導いていく紛争転換の概念の説明が行われ、その後の各章ではシステム・制度・国家の各レベルにおける SADC の活動の検討が行われる。そして南部アフリカ地域で自律的かつ効果的な平和を達成するために SADC が果たすべき役割が検討される。</p> <p>第 1 章では、研究の背景説明として、関連した先行研究、理論的枠組み、方法論の提示が行われる。第 2 章では、システム・レベルと設定された分析枠組みで SADC の検討が行われる。ここでは SADC がかわる南部アフリカ地域全体の紛争転換能力の現状が評価される。第 3 章では、制度的レベルと設定された分析枠組みで SADC の検討が行われる。ここでは SADC の組織的な活動が、人間の安全保障の領域に十分な注意を払ってきていないことが特筆される。第 4 章では、国家レベルの分析枠組みで SADC の検討が行われる。ここではコンゴ民主共和国、ジンバブエ、レソトという具体的な紛争事例にかかわった SADC の実績が評価される。第 5 章では、人間の安全保障を取り込んだ政策の導入と、紛争転換能力の向上の関係について、議論が進められる。こうした問題意識から、第 6 章では、南部アフリカ地域における自律的で効果的な平和のために SADC が持つ役割が検討される。</p> <p>公聴会・審査においては、本論文における三つの分析レベルの区分方法、紛争転換などの概念の明晰性、SADC と他の地域組織との連動性、介入主体としての SADC と加盟国との関係性などについて質問がなされたが、いずれに対しても適切な返答がなされた。修辞上の改善点の示唆なども提示されたが、いずれも短期間で修正が可能なものであった。</p> <p>なお本論文の著者は査読付き論文を既に公表しており、博士号取得に必要な要件も満たしている。</p> <p>以上、審査の結果、本論文の著者は博士（学術）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。</p>				